

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

2020

Spring

美しい情熱の都市
ブラジル
リオデジャネイロ

ビートルズ誕生の地

第二特集

リバプール [イギリス]

[発行] (株) ジャパングレイス

リオデジャネイロは、サンパウロに次ぐブラジル第二の都市。
16世紀にこの地を訪れたポルトガル人が入江を大きな川と勘違いして「1月の川」という意味の名前が付けられた。そのグアナバラ港は世界三大美港の一つとなり、リオのカーニバルは世界三大カーニバルの一つに数えられる。また美しい海岸線、岩山の絶景などブラジル最大の観光都市は見どころが満載だ。

Rio de Janeiro city・Copacabana・Ipanema・Iguazu Falls・Carnival of Rio



リオデジャネイロ

美しき自然 情熱のカーニバル



CONTENTS

特集

美しき自然 情熱のカーニバル

リオデジャネイロ P3

太陽降り注ぐ都市に
美しい景観が広がる P4

青い海に白い砂浜
ビーチを満喫 P6

圧倒的スケールで迫る
イグアスの滝 P7

熱狂的な歌と踊りの祭典
必見! リオのカーニバル P8

多彩な味覚にあふれる
美食大陸、南米 P10

参加者インタビュー P12

第二特集

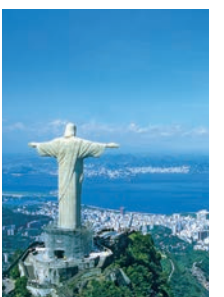
ビートルズ誕生の地
リバプール P14

イギリスの湖水地方と
北ウェールズの自然美に癒される P16

ピースボート災害支援センター P18

表紙の写真

コルコバードの丘にあるキリスト像からリオデジャネイロの街とグアナバラ湾を望む。



太陽降り注ぐ都市に 美しい景観が広がる

ブラジルは南米大陸の半分の面積を占めるスケールの大きな国で、リオデジャネイロは、1960年に首都がブラジリアに遷都されるまで、ブラジルの首都として栄えた。現在も中南米有数の貿易港、経済・文化の中心地だ。観光資源も多く、都市周辺の美しい文化的景観は「山と海との間のカリオカの景観群」として世界遺産に登録されている。

リオデジャネイロの観光スポットの一つ「コルコバードの丘」は標高710メートルもあるので、市内から登山列車で向かう。リオの象徴ともいえるのが丘の上に建つ「コルコバードのキリスト像」。1931年にブラジル独立100周年を記念して建てられた巨大な像は、両手を広げてリオの街を見守っている。高さ38メートルもあり、中には礼拝堂もある。またこの丘から街を見下ろすと、世界三大美港の一つグアナバラ湾や「ボンジ・アスカー」の奇岩を望む絶景が広がっている。

ボンジ・アスカーのロープウェイに乗って頂上を目指す。1本目のロープウェイを降りたところが「ウルカの丘」で、カフェで休憩することもできる。円錐状の岩の頂上は海拔396メートルで、ここからの眺めもまた素晴らしい。

このほかりオの中心地のセントロ地区には歴史的な情緒ある街並が続く。カリオカ広場近くに堂々と建つ2万人を収容する大聖堂「カテドラル・メトロポリターナ」をはじめ、35万冊の古書を揃える「王立ポルトガル図書館」、ブラジルの巨匠らによるユニークな設計で目を引く「ニテロイ現代美術館」など見どころも多い。南米らしいカラフルな色づかいの大アート「セラロン階段」や街なかの壁画も目を楽しませてくれる。



1: チリ人の芸術家ホルヘ・セラロンがブラジル人に捧げて作った階段。エスカダリア・セラロン。2: 天井までステンドグラスが施されたカテドラル・メトロポリターナ。3: 200年以上の歴史があり南米最大級の規模を誇るリオデジャネイロ国立図書館。4: セントロの広場にある水道橋。5: 街にはカラフルな壁画があちこちで見られる。



Pão de Açúcar

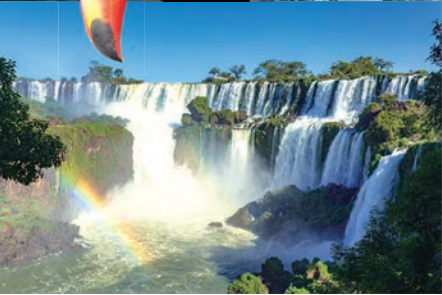
グアナバラ湾の入口に隆起したボンジ・アスカーへロープウェイで向かう。



6: 南米に生息するオオハシの置物。7: 露店マーケットで売られているビーズアクセサリ。8: 南米らしいカラフルな色づかいのカゴ。9: フレッシュジュースも飲めるフルーツ店。

新世界七不思議にも選ばれているコルコバードのキリスト像。数多くの石鯨石で造られている。

世界最大の滝は、この世のものと思えないほどのスケールで自然の壮大さを感じさせてくれる。



Iguazu Falls

圧倒的スケールで迫る イグアスの滝

先住民の言葉で「大なる水」という意味の「イグアス」。東京都とほぼ同じくらいの広大な面積をもつイグアス国立公園の主役として、世界中から観光客が訪れている。世界三大瀑布のなかで最もダイナミックな滝の迫力を前に、見る者は圧倒され、自然の偉大さに感動しながら、畏怖の念に打たれるだろう。



1:ブラジル・アルゼンチン・パラグアイの三国にまたがる公園内には国境もある。2:滝の周りのトレッキングコースを歩きながら見学する。3:空から見たときイグアスの滝の連なりがよく分かる。



北米のナイアガラの滝、アフリカのビクトリアの滝とともに、世界三大瀑布に数えられる「イグアスの滝」。ブラジル・アルゼンチン・パラグアイの三国にまたがるイグアス国立公園内にあり、「一生に一度は見てみたい」南米屈指の人気を誇る観光スポットだ。三大瀑布のなかでもスケールの大きさは桁違いで、大小275もの滝が4キロにわたって連なっている。毎秒6万5千トンもの水が轟

音とともに最大落差80メートルの滝壺に飲み込まれていく様子は、いつまでも見ていられるほど圧巻のスケールで迫ってくる。また公園内は亜熱帯の自然の宝庫で、貴重な動物を見ることができ、滝の周りはトレッキングコースになっており、ブラジルサイドはアップダウンも少ないため、散策気分が楽しめる。展望台も点在するので、ベストポジションから記念撮影を楽しもう。

Beach Side

青い海に白い砂浜 ビーチを満喫

生粋のリオっ子から国内外の観光客まで、大勢の人で賑わっているのが、リオの代名詞ともいわれるビーチ。のんびり日光浴をする人、ビーチバレーやビーチサッカーで盛り上がる人たち。またショッピングを楽しむこともでき、美しいサンセットも必見だ。

1:イパネマビーチに建ち並ぶ売店は代名詞の一つ。2:ユニークなスタイルの売り子。3:夕日鑑賞もリオの名物。4:地元住民の愛犬がビーチを散歩。



ビーチファッションの中心地でもあるイパネマビーチ。

約4キロにわたって長い砂浜が伸びる「コパカバーナビーチ」。ビーチサッカーやサーフィンが盛んで、広さを活かして年間を通してさまざまなイベントが開催され、いつ訪れても賑わっており、お土産やスナックなどの売り子や露店も多い。このビーチはフットバレー発祥の地といわれている。また実在した美女を称えたボサノバの名曲「イパネマの娘」が生まれた「イパネマビーチ」は、ビーチに沿って高級住宅地が並び洗練された雰囲気の人気だ。イパネマ海岸の延長線上にある「レブロンビーチ」はセレブも訪れる穴場的スポット。このほかコパカバーナとイパネマの間にある「アルポアドールビーチ」は、半島の先に位置し、特に夕日鑑賞で知られ、日没の時間帯には多くの人が集まってくる。

Copacabana Beach

「海の皇女」というニックネームをもつ、コパカバーナビーチ。波模様様の石畳は70年代に完成した。





熱狂的な歌と踊りの祭典 必見！リオのカーニバル

世界三大祭りの一つである「リオのカーニバル」は、地上最大のショーといわれるほどの華やかさで知られ、毎年復活祭の40日前まで、5日間にわたって熱狂的な歌と踊りが繰り広げられる。期間中はメインのコンテストが開催されるサンボドロモスタジアムのほか、街中で大小のパレードやストリートバンドが登場し、街全体がカーニバル色になる。

カーニバルには「謝肉祭」の意味があり、元々はキリスト教の宗教行事の一つだ。なかでもキリストの復活を祝う復活祭（イースター）はいちだんと重要な行事になる。復活祭前の40日間が禁欲生活となるため、その前の5日間をカーニバルとして食べて飲んで踊り、楽しく過ごしたことが由来となっている。

リオのカーニバルは、ブラジル独自のサンバとともに規模を発展させてきた。ブラジル東北部のアフロブラジル音楽がリオで広まって、小さなグループが生まれ、組織化され、1932年に初めてのコンクールが行われたという。現在のパレードによるコンテストが行われるようになったのは1950年代だ。

カーニバル期間中は、100万人以上の人が観覧や参加のために街を訪れる。大小のパレードやバンドをいたるところで目にする事ができる。メインパレードが行われるのはサンボドロモスタジアムで、ブラジルナンバーワンの称号を目指し、国内屈指のサンバチームが競う。

最初の2日間はアクセルグループが登場し、次の2日間でスペシャルグループが会場を沸かせ、そして最終2日間で上位入賞6チームによるチャンピオンパレードが行われる。全長約700メートルの会場を65

分以上80分以内でパフォーマンスを披露するのだが、その内容はあらかじめ決められたテーマをもとにサンバオペラを作り、演出家の元で磨きをかけ、山車を制作し、噴水や花火などの仕掛けも考えられたものになる。各チームのメンバーは2000人から4000人規模にもなり、とにかくダイナミックの一言だ。

優勝賞金も莫大でラスベガスのホテルでのショーが行えるなどビジネスチャンスも生まれるため、コンテストは真剣勝負。歌と踊りはもちろん、打楽器の演奏、衣裳、山車と装飾、パレード全体の調和などが細かく審査される。スタジアムでは船旅の仲間とともに、マラカスなどを手に気に入ったチームへ声援を送るといってそう楽しめるだろう。





【セビーチェ】

ペルーやメキシコなどでよく食べられる、魚介類のマリネ。白身魚にエビやタコ、イカなどに新鮮な野菜を加え柑橘系の果汁を搾ったもの。

Ceviche



【アロス・コン・ポジョ】

コリアンダーのソースとビールで炊き込まれたライス。ペルー風チキンライスとも呼ばれ、チャーハンのような味で、パクチー好きの方にお勧め。

Arroz con pollo



【ロモ・サルタード】

ペルーの伝統料理で、ペルーに移民してきた中国人の影響を受けている。牛肉と各種野菜を炒めるが、醤油が使われるので馴染みやすい味だ。

Lomo saltado



【メルルーサ】

南米の一般的な白身魚。淡白でクセがなく揚げても煮ても、ソテーしてもどんな調理法にも合い、価格も庶民的なので日常的に親しまれている。

Merluza



South American Foods

多彩な味覚にあふれる 美食大陸、南米

南米大陸は日本の真側に位置しており、普段はあまり馴染みのない国が多いが、実は美食の宝庫として知られている。海岸が多いためシーフード料理はもちろん、メインとしての肉料理のバリエーションも豊富。また各国で育まれてきた郷土料理、伝統料理など多彩な味覚にあふれている。



【アロス・コン・レチュ】

中南米の各国でよく食べられている、米と牛乳で作ったデザート。甘いお粥のような味わいで、シナモンやレモンの皮などが香り付けに使われている。

Arroz con leche



【セントージャ】

チリやアルゼンチンで良く食べられるセントージャは、南極ガニと呼ばれタラバガニに似ている。甘みのある身はお替わりしたくなるほど美味だ。

Centolla Tía



【エンパナーダ】

餃子のような見た目の中南米では一般的な家庭料理。スパイシーな具材を薄いパン生地で包んだお惣菜だ。具材は各国によってさまざま。

Empanada



【シュラスコ】

日本でもお馴染みの、鉄串に牛肉や豚肉、鶏肉を通し岩塩をふり炭火で焼き上げ、切り分けて食べるブラジル料理。ビールとの相性も抜群だ。

Churrasco



【モースイ・ジ・マラクジャ】

ブラジルのカフェやレストランの定番メニュー。ゼラチンを用いたさっぱりとした味わいのムース。コンデンスミルクがミックスされていることが多い。

Mousse de Maracujá



【アサード】

アルゼンチンで絶大な人気の牛肉のBBQ料理。塩で味付けした牛肉の塊を炭火でじっくり焼く、パーティーには欠かせないメニュー。赤ワインが合う。

Asado



【フェイジョアダ】

黒豆と肉を煮込んだブラジルを代表する料理の一つ。牛肉のほか豚肉のさまざまな部位が用いられる。ほとんどのレストランにある定番メニュー。

Feijoadá



【カウサ】

ペルー風のポテトサラダ。マッシュポテトにツナ、アボカド、チキンなどお好みの具材を押し寿司のように挟んだ、見た目も美しい家庭料理だ。

Causa



【チュベ・デ・カマロネス】

川エビをトマトクリームでじっくり煮込んだスープ。ペルーのアレキパという山岳地帯の名物料理でエビの出汁が効いた濃厚な味わいがクセになる。

Chupe de Camarones



【ムケッカ】

ブラジル北部の名物料理で魚介類をココナッツミルクで煮込んだもの。魚貝スープとしても楽しめるし、ご飯やバケット、パスタにも合う。

Moqueca



Interview

アンバサダーが語る ピースボート クルーズ体験



ピースボートクルーズアンバサダー
中山 広子さん（佐賀県在住）

ピースボートクルーズは第98回世界一周と第103回オセアニア一周に乗船。現在ピースガイドとして活動しているほかピースボートセンターふくおかで週末を中心に運営ボランティアに参加している。「若い人たちと一緒にさまざまなことに取り組めて刺激を受けています。私にとつての生きがいですね」。



ピースボートクルーズをきっかけにピースガイドをはじめとする核廃絶活動や海外支援の大切さなどを考え、取り組むようになった中山広子さん。「旅を楽しみながら世界を知り、平和のメッセンジャーであり続ける」ピースボートの精神に共感している中山さんに話を伺った。

ピースボートクルーズ乗船のきっかけを教えてください

私は小学校の教諭を長く務めていましたが、退職したら船で世界一周することが長年の夢でした。クルーズの内容を知るために、在職中に説明会に参加したところ、ピースボートではボランティア割引があるということで、約1年半、ピースボートセンターふくおかの運営をお手伝いして、第98回クルーズに夫婦で初乗船しました。

初めての世界一周で印象に残った場所はどこですか

訪れた場所では、まずペルーのマチュピチュ遺跡ですね。「教科書に載っているのと同じ景色！」と感激しました。またノルウェーでは作曲家グリーグの生まれた土地を訪ねました。夫と友人と3人で電車に乗って行ったのですが、現地ではグリーグの楽曲を演奏するコンサートを聴くことができました。そのホールの前面がガラス張り、目の前にフィヨルドが広がっていると、とても美しく贅沢な時間でした。あとサントリーニ島も素晴らしかったし、選ぴだすとキリがありません。



船内での生活でも貴重な体験をされたと聞いています

ピースボートは船内でのプログラム、イベントなどがとても充実しています。私は、水先案内人（ゲストスピーカー）として乗船していたアニメーション監督のパートナーとして活動しました。アフレコショーを行う際に使用する映像に、セリフ、音響、装飾といった各グループに分かれて作品を完成させていきました。船内で発表した充実感もさることな



ピースガイドの資格を 取得したのもこのクルーズ だったそうですね

このクルーズに広島・長崎の被爆者が乗船されていたことがきっかけで、ピースボートが取り組む核廃絶のプロジェクトにも興味をもちました。私も長崎出身で父が被爆しているのですが、この乗船で自分が被爆2世であることを改めて実感したのです。私自身は健康ですが親戚に甲状腺の病気をもち人がいたりして、核廃絶に向けて自分ができるところをしようと思っただけでいいなと思いました。そして船内で10回にわたる講座を受けて、ピースガイドの資格を取ったのです。

ピースガイドとして どんな活動をしていますか

そうですね、一緒に船内でピースガイドの資格を取った若者二人が長崎を訪ねてきた時に、被爆地や街を案内したり、自分の子どもや孫が帰省したときにも戦争のこと、核のことを伝えねばと思い案内しました。また長崎では被爆者の方々を中心に、毎月9日の慰霊の日にあわせて核兵器廃絶の署名の呼びかけや座り込み集会が行われているということを知り、姉と二人で参加しました。地道ながらもピースガイドとしての活動を続けています。



去年から今年にかけての オセアニア一周クルーズに 参加されましたね

オセアニアクルーズは行ったことのない寄港地が多く、ぜひ観光地を回ってみたいという理由もあります。ガダルカナル島やラバウルに寄港し、戦争の跡を見学し慰霊に参加できることも大きかったです。ニューカレドニアでは、戦前にニッケル鉱山の発掘のため多くの日本人の方が移民として移り住んだことを初めて知って、行つてみたいと思いました。移民団の苦労や敗戦後の辛くて大変な歴史を知ることができ、亡くなった方の日本人墓地でお参りをさせてもらいました。またラバウルでは子どもたちの交流もあり、文房具や洋服を届けたり、一緒に遊んだり踊ったりして楽しく過ごしました。生活面では貧しいけれど瞳をキラキラと輝かせている子どもたちを見て、幸せとは何かを測る尺度について考えさせられました。

ピースボートクルーズの魅力は どのような点ですか

オーストラリアでは特にエアーズロック（ウルル）の巨大さ、絶景に感動した



出発前に病気などに対する 不安はありませんでしたか

初めてのときは、万一旅先で病気になったらという心配もありました。で、事前の病院受診、相談はもちろん、もしもに備え海外旅行保険はしっかりしたものに入っていました。ただ、船には日本人医師も同行していると聞いていたので安心はできました。また、クルーズは申し込みから出発までの期間が長いので、今回のコロナウイルスのような不安要素が発生する場合もあるかもしれません。そのような場合は、キャンセルチャージがかかる場合、3ヶ月前まで状況を静観しつつ判断されるのがよいと思います。何よりせつかく得た割引や特典などがすべて無くなってしまうのはもったいないですからね（笑）。出発を迎える日までは、世界の情勢から家族の反対までさまざまな困難が発生するかもしれません。しかし何より「夢の世界一周」ですから、ギリギリまで諦めずにぜひとも夢を実現させてもらいたいです。私自身がそうだったように、その後の人生が大きく変わる、そんな出会いと体験が皆さんを待っていますので！



ビートルズ誕生の地 リバプール

イギリス北部に位置するリバプール。かつては海運業で栄え、現在は重厚感のある多くの歴史的建造物が残され、芸術文化、スポーツの中心地として知られている。世界遺産の「ピアヘッド」をはじめ港湾エリアには見どころが多く、街中にも「リバプール大聖堂」や「リバプール市庁舎」などの観光スポットに事欠かない。また世界中に、世代を超え、時代を超えてファンがいるビートルズの生まれ故郷としても有名だ。ビートルズ関連の観光スポットも多いことから、年中通してファンが街を訪れている。



1:ピアヘッドに建立されているビートルズのブロンズ像。2:世界遺産「海商都市リバプール」を構成する一つアルバート・ドック。

かつての海商都市の遺産が観光スポットに

リバプールは港から街の中心地まで徒歩で約15分の港湾都市である。埠頭の一角にある「ピアヘッド」は、産業革命以後の反映を物語る3つの建物「ロイヤルリバービルディング」「リバプール港ビルディング」「キューナードビルディング」からなる世界遺産。「アルバート・ドック」は華やかな海洋交易拠点の歴史を伝えてくれる。また「マージーサイド海洋博物館」や「リバプール博物館」もこのエリアにある。

街のアイコンともいえるのが「リバプール大聖堂」で、英国国教会で最大規模を誇り、101メートルもの塔がそびえ立っている。天井が

高くステンドグラスを通して注がれる光のなかに立つと荘厳な雰囲気にも包まれる。9700本以上のパイプで音を奏でるパイプオルガンやイギリスで最も大きいといわれるベルも見だ。また塔の頂上からは街を一望できる。

リバプール大聖堂と比較されるのが「メトロポリタン大聖堂」で、現代的なデザインとともにこちらもステンドグラスの美しさで知られている。このほか自由行動では、人気、実力とも世界屈指のクラブ「リバプールFC」の本拠地「アンフィールドスタジアム」の見学ツアーもお勧めだ。



3:ヨーロッパ最大の規模といわれるチャイナタウン。4:リバプールをホームタウンとする2つの有名フットボールクラブ。5:ファストフードが食べられるリバプールの名物イエローバス。

そしてもちろん、ビートルズの足跡もたどりたい。ビートルズの生い立ちをパネル、写真で紹介し、貴重なグッズも揃えた「ビートルズストーリー」をはじめ、発祥の地として有名な「マシュー・ストリート」には像やレコードが飾られている。また名曲のモチーフになった「ストロベリー・フィールド」、リバプールサウンドの中心であり、かつて若かりしビートルズも演奏した「キャヴァーン・クラブ」もファンにとってはたまらないスポットだ。

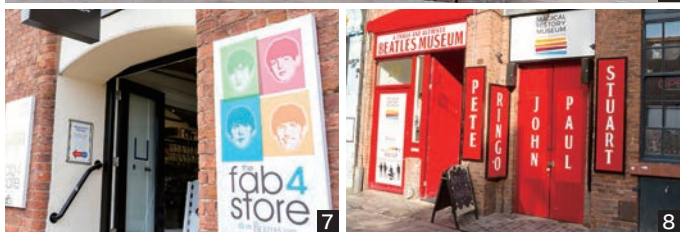
Liverpool



リバプールのショッピングストリート。



カトリックの宗教施設メトロポリタン大聖堂。



6:日本語のオーディオガイドもあるビートルズ・ストーリー。7:ビートルズグッズを販売しているfab4ストア。8:オリジナル機材、アートワークなどの記念品を保管しているマジカル・ビートルズ・ミュージアム。9:マシュー・ストリートにあるビートルズファンの聖地キャヴァーン・クラブ。10:パブが多い小さな横丁マシュー・ストリート。



「三美神」と称される3つの建物を中心とした世界遺産ピアヘッド。

Peter Rabbit

ビートルクス・ポター世界館

ウインダムミア湖に面したボウネス地区にあるピーターラビットシリーズの作者、ビートルクス・ポターの作品を再現した施設。絵本の中に入っていくような展示で、日本語による音声、映像も楽しめる。ティールームやギフトショップも人気だ。



Lake Windermere

1:ウインダムミア湖畔は緑深く、花々が咲き誇る。そして石積みの家並みが中世の面影を残している。2:地図やお土産の販売、アクティビティの予約などを受け付ける案内所。3:遊覧船でのクルーズは観光客に人気。4:レイクルーズ埠頭に併設された駅からハバースウェイト鉄道の蒸気機関車に乗ることができる。5:ウインダムミア湖の北岸の街、アンブルサイドで見られる水車のある風景。



湖水地方の入口で、心をなごませる手つかずの風景が広がるウインダムミア湖。

Northern Wales



6:世界遺産に登録されているコンウィ城。7:ベトウス・イ・コエドでは美しい自然のなか、散歩を楽しむ。



やノスタルジックな蒸気機関車の乗車体験もできる。
湖水地方は「ピーターラビット」の原作者ビートルクス・ポターゆかりの土地であり、物語に描かれた舞台が数多くある。ポターが晩年を過ごした「ヒルトップハウス」が今も残り、家具やイラストブックなどが展示されている。「ビートルクス・ポター世界館」ではピーターラビットの世界がそのまま再現され、物語の登場人物たちにも出会うことができる。

北ウェールズに足を伸ばす旅もお勧めだ。城壁の街コンウィでは世界遺産のコンウィ城、中世の城下町を散策するのも興味深い。ウェールズ最高峰のスノードン山の裾野に広がるスノードニア国立公園は、美しい湖や川を眺めながらミニハイキングも楽しめる。世界遺産に登録されているポンテカサス水路橋は地上38メートルの水路橋で、ここを徒歩で渡ることができる。史跡と大自然が融合した北ウェールズの魅力を存分に味わいたい。

大自然のなかで緩やかに時が流れる

イギリス北西部の湖水地方は、16の湖と500以上の池がある有数のリゾート地だ。およそ2300キロ平方メートルがナショナルパークに指定され、世界遺産にも登録されている。雨が多いことでも有名な地域だが、英国随一の自然美とよばれる風景がそこにある。
ウインダムミア湖は湖水地方の観光の中心であり、長さが18キロ、

深さは61メートルもあるこの地方で最大の湖。氷河時代に氷河の侵食によって水が谷に流れ込んだことで形成され、湖の周りを緑の山々が連なっている。ロマン派詩人のワーズワースが愛した風景が今も変わらず広がっている。花々を眺めながらの湖畔散策で癒され、中世の面影が残る街を巡るのも楽しい。また遊覧船でのクルーズ

イギリスの湖水地方と北ウェールズの自然美に癒される

首都ロンドンから約400キロ離れたイギリスの湖水地方には、絵画のような美しい田園風景が広がっている。大きな湖と小さな川が豊かな緑とともにハーモニーを奏でている。極上の自然に包まれようと、世界中から訪れる人が絶えない。



スノードニア国立公園内にあるリゾート村ベトウス・イ・コエドの風景。

いわき市支援 前へ進むために 力を合わせる

台風19号の被害にともなう PBVの活動報告

昨年10月、台風15号に続き上陸した台風19号は各地で河川の氾濫、土砂災害を発生させ甚大な被害をもたらした。ピースボート災害支援センター(PBV)では、最も多くの浸水被害が発生した福島県いわき市へ支援活動に入り、多方面から活動を展開。現在もなお支援を継続している。



PBV ピースボート
災害支援センター

[公式サイト] <http://pbv.or.jp/>

PBVは災害発生後に、被害状況の把握と関係機関との支援調整を行い、福島県いわき市に支援活動に入るため全国的に広くボランティアを募集した。「台風19号による被害は福島が最も大きかったのですが、支援は最も少なかった。そこをPBVとして支援していきたいと思いました」とスタッフは語る。

まず行ったのが、いわき市内郷コミュニティセンターに開設された避難所の運営サポート。少しでも住民の皆さんが安心して健康的に生活できるよう大掃除から始まりダンボールベッド、パーティション、共有スペースなどを次々と設置していった。ときにはクリスマス会などのイベントを実施し一緒に楽しんだり、

「また毎日片付けに追われ、先の見えない状況に置かれている皆さんが気軽に立ち寄れるサロンをつくり、お茶を飲みながらほっと息つき、困りごとや悩みを話せる場所もつくりました。積極的に接することで『助けてくれる人がいるのは嬉しかった』と言っていただけけることも多くありました」

このほか、被災した際に汚れてしまった大切な写真を洗浄するための講習会は好評で、自力で洗浄がむずかしい世帯はPBVで預かり洗浄した。現地ではさまざまな場所で皆さんから「ありがとう、PBVの活動を通して、人に寄り添うという意味を改めて知った」「PBVがいてくれて良かった」と言うってもらえることが多く、避難所支援で関わったスタッフは退所後に自宅へ招かれたケースもあった。今回、2019年10月24日から2020年2月28日まで



この期間で、延べ活動人数は2500人を超える。

なおボランティア募集は終了しているが、PBVとしての支援活動は現在も継続しており、公民館への備品提供、情報共有会議のサポートを行っている。「ボランティアに関心を持ってもらい、現地に赴くことで他人事ではなく自分事としてとらえ、「助け合いの文化」を育んでいきたい」というPBVの活動、取り組みはこれからも続く。



ご家庭に眠る「お宝」が 被災者へのご支援になります。

「お宝エイド」は、ご家庭に眠っている寄付してもよい「お宝」をリサイクル会社で送ることで、それがPBVの支援金となる仕組みです。乗船前の荷造りを機に協力してくださる方もいます。着払いで送料は無料。また全国のピースボートセンターやジャパングレイスの営業所では余った外貨の紙幣やコインを支援に使える「外貨募金箱」も設置しています。



西日本豪雨(2018)食事支援



ネパール地震(2015)仮設校舎支援

- 金・貴金属 ●切手 ●ハガキ・年賀状(未投函) ●ブランド品
- 図書券・テレカ・金券 ●勲章・金貨貨幣セット ●絵画・掛軸
- 骨董品・刀剣・刀装具 ●ダイヤモンド・宝石 ●ブランド食器
- 懐かしのおもちゃ・プリキ玩具 ●高級洋酒 ●DVD・ゲーム
- 楽器 ●カメラ・レンズ

こんなもの送っていいの?などお問い合わせは

お宝エイド受付センター tel.03-6265-7595

●詳しくは、ピースボート災害支援センターのホームページをご覧ください。

船上百景 [フルーツパーティー]



どれを選ぶか迷ってしまう! 南国の新鮮なフルーツたち。初めて食べるフルーツのお味はいかが。



希望のフルーツをスタッフが取り分けてくれる。



美味しいフルーツを食べながら会話を弾む。

フルーツでおなかいっぱい!
初めて体験する味に感動

シンガポール寄港後のお楽しみは、恒例となっている「フルーツパーティー」。会場のレストランに、カラフルなフルーツが並びとても良い香りが広がっている。バナナやメロン、パイナップルといった日本でも馴染みのフルーツをはじめ、ランブータンやマンゴスチン、サラックにロンガンといった初めて目にする珍しいものも並ぶ。毎回20種類以上のフルーツが用意される、船内でも人気の企画だ。

参加者はビュッフェスタイルで、好きなフルーツを好きなだけ楽しめ、バンド演奏が南国気分を盛り上げる。「初めてドリアンを食べました! 臭いが強烈でしたが意外に美味しく食べられました(笑)」「珍しいフルーツがいっぱい! マンゴスチンはとにかく甘かった!」参加者たちは思い思いのフルーツを皿にとり、初体験の味に驚いたり、フレッシュさに感動したり、存分に満喫。笑顔あふれるひとときになった。



「1973年当時のトイレットペーパーが実家にまだあった」という話が話題になっています。オイルショック時に買ったためしたものも今もまだ残っていると――まさに、当時の買い占めパニックの滑稽さを示す笑い話ですが、またまたトイレットペーパーが品薄となった昨今、笑うに笑えない話でもあります。やはり、周りの人々が浮き足立っている時ほど、落ち着いて行動することが大事なのだとつくづく思います。

世界一周を楽しみにされていた方々のなかにも、新型コロナウイルスによるパニックで参加を断念される方もおられます。とても残念ですが致し方ありません。一方、今この季刊誌をご覧になっている方々は、この夏以降のいずれかのクルーズに参加を予定されている皆さまです。何千人という方が、いずれ収束するこの状況を冷静に見守りつつ、世界一周への準備を進めておられます。

人類はこれまでも多くの感染症と戦い、そして克服してきました。21世紀に入っても鳥インフルエンザやSARSの流行がありました。新型コロナウイルスの流行も遅かれ早かれ必ず終わる日が来ます。その時こそ、この荒波を乗り越えられた皆さまと共に、世界一周の大海原へと漕ぎ出すべく、スタッフ一同、皆さまに心から喜んでいただけるクルーズの実現を目指してがんばってまいります。(N・I)